NPO 法人東京ＹＷＣＡ福祉会 通信

３号

2017 年 11 月

特定非営利活動法人東京ＹＷＣＡ福祉会
<事務局>〒174-0043　板橋区坂下 1-34-25　公益財団法人東京ＹＷＣＡ
板橋センター内　　TEL03-5914-1854 FAX03-5914-1852

種から若木に

2015 年 2 月に東京ＹＷＣＡ福祉会が NPO 法人として発足してから、まもなく 2 年 9 か月が過ぎます。この間、法人としての組織整備、Y's ホーム ハイホーの開所、その半年後に Y's コート ゆいの開所とカフェ JOY の開店。次々と迫るスケジュールと課題の解決に追われる日々で、実は今もその状態は続いています。そうした中にあって、何よりもの喜びは、利用者の皆さんのいきいきと気力のある表情に接するときです。

昨年の 2 月に 7 人のハイホーメンバーが述べたことばは､「一日も早くハイホーの生活になれる」でした。2 年目に入りそれぞれの個性が発揮されはじめ「家族」の味わいが出てきています。ゆいの 5 人のメンバーは月を追うごとに習熟度が深まる仕事ぶりに目を見張るばかりで、それに添った支援の力が日々試されています。

板橋センターの庭に柿と梅の木が数本ずつあり、今年も柿がたわわに色づき始めました。この柿の木は実生から成長したときいています。住み慣れた地で仕事をし、生活する場を提供する福祉会であればこそ、今は芽生えたばかりの若木ですが、この地にしっかり根を据えてたくましく成長していきたいと願っています。　　（理事長　栗林(坂口) 和子）

施設長ごあいさつ

2017 年 4 月より、Y’s コート ゆいと Y’s ホーム ハイホーの施設長となった大澤宏実です。どうぞよろしくお願いいたします。私の人生は、あたかも神様から導かれてきた感じです。高校入試でミッションスクールに入った時。雪の日の試験日でした。これが最初でした。大学の進路時期、牧師の家の友達から誘われ、映画「塩狩峠」を見て、福祉の世界に行こうと決めた時。これが二度目。子どもが幼稚園に行く年齢の時に母校の通学圏内に異動となり、母校の幼稚園に入ることができた時。異動が一年でも違えば、こうは出来ないことでした。これが三度目。母の病が思わしくなく同居を考えた、その日、なんと同じマンション内に空きができ、広い部屋に移り母を引き取った時。これが四度目。そして、前職である加賀福祉園から次の働く場を探していた時、今の職場へ…　この導きで、五度目。私の経験を活かしながら、ゆいとハイホーを、充実させていきなさいということが、神様の導きと思っています。

春から､ゆい､ハイホーと共に走り続けてきた半年となりました｡今、流されない、緩まない、ぶれない仕事の基礎を、仕組みとして整えている最中です。これからは、流されていた時期(受け身)から流す時期(主体的)に変わります！ゆいには､「働く場」にふさわしい作業量の提供や同種業者には無い特徴であるカフェレストランの運営の在り方､何より利用者を増やす事など、解決しなければならない課題が多くあります。ハイホーの運営、支援は一定軌道に乗っていますが、働く人手不足は厳しく過酷な勤務を余儀なくされています。仲間に加わる人が、ぜひ欲しいものです。

越えなければならぬ山は厳しいほど、越えた時の達成感や充実感は、至福の極みとなるのです。その味わいを噛み締める事が出来るのは、開設後間もない今だけです｡頂を目指しましょう！(施設長 大澤 宏実)

カフェ JOY の入口にある記念プレート

Y’s コート ゆい 就労継続支援 B 型

発達障がい、知的障がいのある人々の「働く場」**Y’s コート ゆい**は、9 月 1 日に 1 周年を迎えました。

カフェ JOY では月曜日～金曜日まで、日替わりランチと、ケーキセットを提供しています。

受注作業(封入)、自主生産製品作りと仕事の種類も増えました。利用者さんたちは 1 日の中で時間を区切り、午前中は厨房での仕事、午後の前半は封入作業…というように、分担しながら仕事を進めています。

「Y’s コート ゆい」立ち上げ、そして これから

～住みなれた場で安心して暮らしていくために～

東京ＹＷＣＡは板橋センターにおいて、子育ての広場から、子ども達の成長を見守る活動を長年続けて来ました。発達障がい、療育という言葉が今ほど認識されていない時から、発達に遅れがあることで悩み母子共に居場所を求めていました。

一人でも支援を必要とする人と向き合い、どうしたら安心して毎日の生活を送ることが出来るかを模索する中、学齢前の療育事業が開始されました。

さらに先を目指し、学童期・成人期とライフステージに合わせた支援を実現したいと考えていました。

その願いが届いたかの様に、故筑井様のご寄付を受けることが出来、新しい建物が建ち、働く場としての就労支援の場「Y’ｓコート ゆい」が開設されました。

1 階、「カフェ JOY」は利用者の方が仕事として関わりランチを提供しています。2 階では作業を行っています。こうした小さな一歩から始まった活動が着実に成長して来ました。

一人一人が住みなれた地域で豊かに過ごせる場として、それぞれの可能性を引き出し合い、力をつけ、地域の人々と共に歩む施設として発展し続けることでしょう。（理事　宮永 順子）

開設から 1 年、毎日の様子

Y’ｓコート ゆいが昨年 9 月に開所して、1 年が経過いたしました。開所時は職員 4 名、利用者 1 名でのスタートでした。

カフェ JOY 厨房内での調理（野菜の下ごしらえや盛り付け、トレーへの配膳）、食器洗い（洗浄、ふき作業）とホールでの開店準備（清掃）作業、つくい館の 1 階～3 階までの掃除機がけ、モップでの空ぶき、トイレ、流し台等の清掃作業などの仕事があります。

カフェ JOY では毎日、日替わりのメニューを提供しています。

利用者も少しずつ増え、4 月には 6 名となりました。職員も新しい顔ぶれが加わり、カフェ JOY での厨房作業、ホール作業、その他の作業（清掃・ポスティング・封入・買い物・ブレスレット作り等）が、しっかりと行われるようになりました。

2 年目を迎えました今後は、カフェ JOY へより多くのお客様が来られる取り組みや受注作業を増やしていきたいと思っております。（サービス管理責任者　浅香 隆）

茨城から送られたルバーブを使って
「るばーぶジャム」を販売しました。
大好評でまたたく間に完売！
材料切りからラベル貼りまで、
みんなで協力しました。

ブレスレット作り材料として、
ご不要のアクセサリーを求めています！

Y’s コート ゆいでは、自主生産製品ブランド**「坂下ゆい商店」**で、使われなくなったアクセサリーを再利用したブレスレットを製作・販売しています。

パールやビーズなどを繋いだネックレスやブレスレットで、もうつけなくなった品物を、ご寄付頂けませんか。

ご寄付頂いたアクセサリーは、分解してパーツを外し、洗浄して、また繋ぎ合わせ、新たな作品に生まれ変わります。

ご協力をお願いいたします。

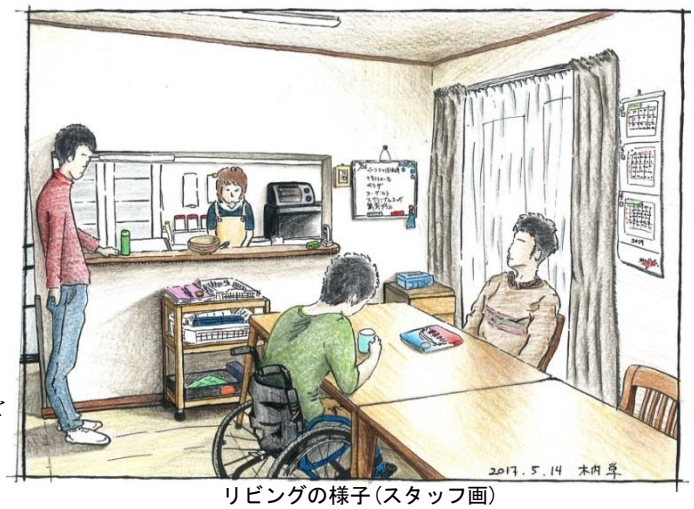
Y’s ホーム ハイホー 共同生活援助（グループホーム）

身体障がい、発達障がい、知的障がいのある人々が暮らす **Y’s ホーム ハイホー**では、20 代～30 代の男性 7 名が共同生活を送っています。クリスマス会やバーベキュー大会を、家族を招待して入居者とスタッフが協力して開くなど、”同じ釜の飯を食う”仲間同士、ホームのメンバーの一体感も増してきたように感じます。

近況報告

Y’s ホーム ハイホーが開設したのは、昨年 2 月 1 日。はや 1 年 9 か月が経ちました。初めの頃は、入居者は緊張もあり、夜中に何度も起きたり、便秘や失禁等、体調も崩しがち。スタッフも一人ひとりの生活リズムを把握することに無我夢中の日々が続きました。その内少しずつ余裕も出てきて、各居室の表札づくりが始まりました。一目で住人をイメージ出来るような個性あふれる表札が各部屋のドアに掛かっています。

月の初めの全員が揃った日に、月 1 回の入居者ミーティングを開いています。要望を聞いたり、その月の予定を話します。例えば防災訓練の時は、混乱が無いようにどんな内容なのかを説明し、次の月には感想を聞きます。防災訓練は隔月奇数月に行っています。ある日の防災訓練は大地震を想定し、揺れが収まった時点で、2 階の車椅子を利用している入居者を階下に下ろす訓練をしました。エレベーターは使えない想定なので、担架で移動しましたが、皆が協力して担いだのです。別の水害を想定した訓練では、1 階の車椅子利用の人を 2 階へ上げる時もみんなで協力して担ぎました。



リビングの様子（スタッフ画）

近くの赤塚公園でのバーベキュー大会もミーティングの要望から実現したものです。美味しそうに頬張る姿、他の家族とも楽しそうに歓談する姿に、毎月おこづかいを積み立てて、楽しみにしていたバーベキュー大会が実現して良かったと思いました。

赤塚公園でのバーベキュー

クリスマス会もやはりミーティングの中で歌を歌いたい(それも曲名まで具体的に)、プレゼント交換をしたい等の要望があり、それらを盛り込んだプログラムになりました。心強かったのは、ご家族によるエールでした。ディズニー映画“白雪姫”の中で歌われる“ハイホー”を、密かに合唱団を結成し、歌ってくださいました。強力な家族の応援があるという思いを伝えるサプライズプレゼントでしたが、それは入居者たちにも伝わったことでしょう。ハイホーの応援歌として根付くことを願いたいと思います。

3 月からは、三輪先生によるアートのワークショップが始まりました。月 1 回、テーマに沿って入居者たちがそれぞれの感性で描く思い思いの作品がうまれています。

このようなイベントを通して、お互い協力することを学び、理解も深まってきたように思います。少しでもより良い明日に向かって進むことが出来るよう、地域の中に暮らし希望と夢を持って心豊かな生活が出来るよう、みんなで力を合わせたいと思っています。

（サービス管理責任者　大庭道子）

アートのワークショップで描いた作品は、ホームの廊下に飾っています。

Y’s ホーム ハイホー
スタッフ募集中！

特に、夜勤の出来る方を求めています。
学生可。週 1 回なら…という方も歓迎です。
入居者がホームにいる時間は 2 名体制で、
夜勤時は交代で仮眠できます。
研修を丁寧に行いますので、初めての方も
安心して働いて頂けます。詳細は事務局まで
お問い合わせください。TEL 03-5914-1854

ご寄付のお礼　障がいのある人の「働く」と「暮らす」を支援するための募金活動に対して、多くの方から温かいご支援を頂いています。心より感謝申し上げますとともに、ご報告申し上げます。

2016 年 6 月 15 日～2017 年 10 月 15 日の期間にご寄付頂いた皆様（敬称略・五十音順）

個人				企業・団体・グループ	物品寄付
相原　紀子	葛生　禎子	辻　由郎	比良　哲郎	アサヒワンビールクラブ	新井 美和子
赤川　惠子	工藤　貴子	土岐　祥子	藤井　紀子	板橋センターの事業を支えるクリス	石田 雄一
池上　邦宣	栗林　菊夫	時田　伸二	二渡　武男	マスバザー実行委員会	石橋 さなえ
石井　須美子	栗山　佳子	時田　多美江	眞壁　智未	株式会社 三恵建設	伊藤 勝
石橋　さなえ	近藤　敏子	時田　未輝	町田　一樹	株式会社 メイプル	浦田 伸子
市川　明代	佐藤　浩子	外山　真理	松並　夕貴	キッズガーデン親の会	川戸 れい子
浦田　伸子	鈴木　誠	鳥海　百合子	三嶋　蓉子	社会福祉法人 福栄会	佐々木 昭子
榎本　清子	関森　紀代子	中橋　真理	南木　典子	綜通アメニティサービス株式会社	三小田 成美
蛯原　まゆみ	ソエタ ジュンコ	中村　祐太	宮本　久子	田口家の人々	外﨑 弘子
大木　身江子	高田　京子	鍋田　都	八束　嗣也	東京信用金庫	寺岡 祥子
大庭　幸	楯石　和男	新田　和子	柳澤　真理	フレンチ・バルーン	前田 侑子
尾﨑　裕美子	楯石　てる子	長谷川　孝一	山下　祥範	株式会社 ピースオブマインド	東京ＹＷＣＡ会館
風間　亜紀	田中　豊康	長谷川　初枝	匿名５名	株式会社 高橋勲建築設計事務所	東京ＹＷＣＡ
川口　雅美	田邊　美佳	蜂谷　祐一郎			武蔵野センター
	辻　俊枝	樋口　喜美			

寄付金合計：　210 万 589 円（10 月 15 日現在）

助成金を頂きました　以下の団体から助成金を頂きました。心より感謝申し上げます。

・**赤い羽根共同募金会** 配分金：カフェ JOY 厨房機器整備のため

・**社会福祉法人 愛恵福祉支援財団**：Y’ｓコート ゆい 什器備品購入のため

応援をお願いします

・**NPO 法人東京ＹＷＣＡ福祉会の会員になる**：屋台骨である、組織を支えることにつながります。

・**寄付をする**：障がいのある人々の「働く」と「暮らす」を支援する事業を支えるために、引き続きご寄付のご協力をお願いしております。

・**「カフェ JOY」で食事をする**・**「坂下ゆい商店」のものを買う**：Y’ｓコート ゆい 利用者の工賃となります。

＜2017 年 6 月 28 日　総会報告＞

以下の議案について審議を行いました。

・2016 年度 事業報告および決算報告 ⇒承認

・2017 年度 事業計画および予算 ⇒承認

・次期(2017 年度～2018 年度)理事監事選任 ⇒承認

総会での承認を受け、7 月 24 日に開催された理事会にて、役員が選出されました。

＜2017 年度～2018 年度 理事監事＞

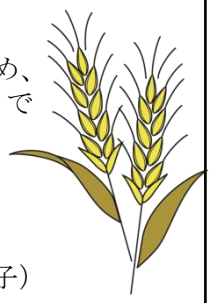
理事 11 名　＊印は新任

栗林(坂口)和子(理事長)	土岐　祥子
新田　和子(副理事長)	宮永　順子
池上　三喜子	八束　嗣也＊
市川　由美子	山下　雅範＊
川戸　れい子	監事 2 名
楯石　てる子	山﨑　亨
田中　孝代	横田　千恵子

＜今後の予定＞

11/11(土)：東京YWCA「留学生の母親」運動を支えるバザー 於：東京ＹＷＣＡ会館(御茶ノ水) ★Y’ｓコート ゆいが出店します	
11/26(日)：板橋センタークリスマスバザー	

コラム『**一粒の麦**』



9 月で Y’ｓコート ゆいが一周年を迎えました。昨年 2 月のグループホーム Y’ｓホーム ハイホーの開所と合わせ、暮らしと仕事が地域に根づいてきました。筑井さんのご寄付をはじめ、地域の方々、会員、キッズガーデン親の会の方々、どれほど多くの方々に支えられて来たことでしょう！

また、実務を担う職員の働きと、公益財団法人東京ＹＷＣＡの物心両面の支えなしには、今日を迎えることはできませんでした。みんなで歩む日々は、いろいろなことはありますが、心楽しく、感謝でいっぱいです。皆様、これからも応援よろしくお願いいたします。

（副理事長 新田 和子）